懷古集

三甲二
一

單

懷古集

追懷古人詩十首

秋湖久坂通武著

庚申除夕予客江戸會爐冷燈青耿〻不寐四顧甲寅以降事時勢日蹙我狄益驕而此間志士仁人殉難死節及罹患疾斃者不太尠諸公之爰恍惚於心目夢寐之間未嘗能暫忘也歲云暮矣万感撰聚追懷不已作短古十首

壯烈正氣歌忼慨回天史苟讀公遺篇頑懦且奮起名義明皇道扶植張綱紀定遠與嫖姚蹉跎困葛藟丹心貫白日如公忠孝士繼絕先親志美頌邦君美

吾心洶欽慕夢寐有時視今公在戊午國支安至此
東湖藤田先生嘗作回天詩史曰嫖姚定遠不可
期予之慕先生久矣而先生没時予甫十五且山
陽東海山河懸隔竟不得伺謦欬客歲十月朔寐
得見先生
虜使太倨傲幕吏忍羞恥艱難誰挺身乾坤獨烈士
和竟無把握戰未必委靡廟堂莫之收撫我允通市
阿爺有遺言朝聞甘夕死距今七周星跳梁奈封豕
山岡君八十郎備後福山人仕阿部伊勢守爲元
締甲寅歲花旗使船來金川八十屢上言賊可討
機不可失戰則有贏有輸和則士氣沮敗爲賊所
制豈遑制賊哉官以和議已決不聽竟諫死八月
廿三日也先是父源左衛門疾篤乃作二幅書朝
聞夕死語授之八十及其舅次左衛門八十著朝
服坐輕對其幅歿云予向過福山紀之門田翁竟
佐爲作小傳
漢庭和匈奴只須追張騫吟詩向危岸万里絶人烟
一朝陷蕃棘疲瘠竟不產於公無半面先師亦流涕
悠悠吾心痛孤鴈夜寂然
甲寅三月和議決金子重輔奮曰迂延至茲者慮

或有支耳。今已無支。宜窮駕夷艦。偵伺海外情形。於是與先師松陰。俱至下田。支吏見捕。投郵街獄。九月。送國後繫獄。重輔持入海。常朗誦唐詩曰。今夜不知何所宿。平沙万里絶人烟。明年正月十一日。以病歿。葬萩城保福寺。後五年。先師亦死節。

不貽辱天皇。賤身何足保。武野幾千岐。吾踐丈夫道。双烈雖志蹉。智勇爲推倒。哀哉艱荊棘。蒼天太蒼顥。頹瀾竟難回。妖氣不可掃。

丁巳冬。墨使登嘗。水戸信田仁十郎蓮田藤藏。與堀江克之助。謀要擊之。支露繫獄。蓮田戊午正月五日病死。年二十三。信田五月某日病死。年三十六。有國風曰。於保幾美乃。美遠計賀佐志上。志豆賀美遠。奈幾比登賀受仁。伊礼天古曾遠礼。蓮田亦曰。武左志能乃。阿奈多古奈多仁。美知波阿礼土。和賀由久美知波。摩須羅遠乃美知。堀江現在郵街獄。又嘗助人復父仇云。

奉詔下東海。要見天下新。一朝白馬禍。清流濁流淪。姦吏要誣服。論辨駁鬼神。張嵩與顏舌。髮指而眼瞋。公事雖敗矣。千秋序彝倫。尤欽氷雪操。賢辟不能臣。

戊午秋。日下部翁伊三次。與鶴飼幸吉。奉勅東下。

車敗逮捕吏鞫問翁忼慨辯駁天下得失一坐悚
動十二月十七日病死葬古河西福寺初翁隨父
其在水戸烈公愛其爲人欲祿之不肯烈公告之
薩侯〻於是召還之
要港控上國豈容黠虜窺方夷舶闖入妻病兒叫飢
大劍起應募國難安遲疑賊道志乃躓詞賦鬼神悲
嗟公罔圉斃頹屋孰能支雖則斃罔圉忠魂護皇基
鄰夷闖入浪速大和十津川民將推雲濱梅田翁
爲首謀膺懲翁起時妻病兒餓翁賦詩曰妻卧病
抹兒叫飢挺身直欲當戎夷今朝死別與生別唯
有皇天后土知既而勞去歸則妻既歿戊午秋蒙
幕疑檻車東下未幾以病死
手欲掃妖熒蹉跌乍謀策一死何足言正路居安宅
遺唫何悲愴讀之血淚赤吾曾過公墓風雨鎖苔石
唯公耿〻者千古照竹帛
戊午秋頼君三樹死節葬骨原令向院嘗獄中作
曰排空數息拂妖熒失脚誤墜江戸城井底痴蛙
過憂念天邊大月歛高明身隨鼎鑊家無信夢步
鯨濤劍有聲風雨多年苔石面誰題日本古狂生
墨使來東海公怒髮上指天動忽雷震感激不自己

從此廢寢食要回倒瀾水博浪誤一擊賈高心自擬
嗟公臨絶嶮悲憤徹骨髓七生期滅賊忠魂何嘗死
大義百世師廿一回猛士

丁巳冬墨使入府言多詭譎松陰吉田先生聞之
憤且嘆曰神國亡矣明年三月天勅汗發海内盡
震於是感激不已將有所爲六月金川盟約幕吏
違勅既而間部下総守上京先生謀要擊支敗已
未十月廿七日死節于江戸墓在骨原令向院先
生臨終作國風曰美波多登閖武尤志能乃邊仁
久津留登毛登〻女於加摩志矢摩登多摩志比

又曰奈〻多毗毛伊幾加邊利津〻衣美須遠曽
波羅波牟古〻呂和礼和須礼女夜

國恩主張擴洋教拯排防至誠布人膜蠢愚發天良
涅衣敝不補寸髪如鍼芒土木其形骸噫公爲國狂
蒼天一何遠誰知我心傷何嘗七里地犬羊太跳梁
月性上人號清狂我周防人以充擴國恩排擊亟
教爲己任於是爲之感激興起不少上人向開下
田開港作詩曰七里江山付犬羊震餘春色定荒
涼

東藩文寅恭執知天子尊公常憤且慨筆誅順逆存

侃〻不毫假何忠襄其元匡救非容易大義戒後昆
公豈桑林客丹心戀帝閽予讀黄菊詠字〻血淚痕
黙霖上人安藝長濱人以氣節自任尊王抑覇筆
誅不假常自謂辨駁幕府欠寅恭而戒責後爲幕
府者上人曾詠菊曰遥對南山泣短籬菊花感慨
少人知千秋郁〻天家號即是淵明以上拔

追懐十首終

松陰二十一回猛士

清水寺僧信海奉勅勅調伏敵國安穩万民事觸
幕府忌諱下獄以病没實今茲四日某日也有遺
歌其兄僧某亦有志人也先是投薩海而死亦有
歌予入獄聞同囚説其事不堪感慕作短古
爲繫東獄死兄投西海没雖各異其地同是皇恩酬
嗟吾身未死感慕湧血流昔聞鏡月坊死國永久秋
今見公兄弟眞筒古人儔

頼三樹

排雲手欲掃妖燄失脚墮来江戸城并底痴蛙過憂

慮天邊大月自高明身從湯鑊家無信夢斬鯨鯢劍
有聲風雨他年苔石面誰題日本古狂生

梅田源治郎

妻卧病床兒啼飢一身直欲拂戎夷今朝死別兼生
別唯有皇天后土知

日下部伊三治

星斗闌干月滿天書窓深坐不就眠欲知世運隆興
兆神武東征戊午年

僧月性

七里江山附犬羊震餘春色定荒凉櫻花不帶腥膻
氣獨映朝陽薰國香

松陰二十一回猛士自賛

三分出蜀兮諸葛已矣夫一身入洛兮賈誼安在哉
心師貫高兮而無素立名志仰魯連兮遂乏釋難才
讀書無功兮撲學三十年滅賊失計兮猛氣廿一回
人譏狂頑兮鄉黨衆不容身許家國兮死生吾久齊
至誠不動兮自古未之有古人難及兮聖賢敢追陪
已未五月吾執拘送關花馬角難乳歸期無定諸
友謀使浦無窮肖吾像吾自賛之顧無窮知我者
豈特寓吾貌而已哉況吾之自賛乎嗚呼吾去矣

諸友對此宜爲隔世想吾即磔市此幅乃有生色也

藤森天山肖像自贊

後天下之樂而樂吾聞其語矣未見其人也先天下之憂而憂吾聞其語矣世豈無其人哉贊曰布衣憂國似陳亮清議買禍似范滂衆皆笑其狂獨曰今之時何時吾怪人之不狂嗚呼是眞可謂狂矣

堀織部正與閣老安藤侯書

外國尹堀織部正謹白語曰鳥之將死其鳴也哀人之將死其言也善臣知之矣嚮不顧微軀激論妄答不服於閣下之高議其罪當萬死乃碎肝腦絞腸血聊述鄙言以奉閣下々々請少容焉抑外虜航海爾來公議百方不決於戰守而決和信是時務之變誰不可防也惟切齒扼腕而已矣臣深憂之嘗奉緩々之鄙言頗有所容而東馳西奔預其事固臣之職不可不竭也然均是人也豈無慷慨義烈之志哉是時務之變誰不可止也彼溺於公議之海酒恣意妄行無顧忌犯大義者不可算也就中墨夷都督米理努留微行於貴邦專論我政務閣下共被同餐尊之如師父遂許刑典數部是可怪一也彼與閣下微伯仲

之義贈衣帛珠玉巨萬閣下酬之以慶長正保金一萬鎰是可怪二也彼醉倒之際戲於閣下之侍妾其閣下許與之是可怪三也彼唱請築居館于御殿山一月以八百鎰贖之閣下遂許之是可怪四也此四事既犯大義者無甚於此矣然天意未可知也尚竊聞彼專論廢　帝之事閣下慫慂使國學人探索我舊典私議其事豈謂之何哉至此血淚如雨鐵腸欲裂誰無哭慟仆地者實天下之賊天誅固不容也其顛末已於彦根老閣下而可見矣是臣深所以爲閣下憂也然道路之流言雖有所不信天以人舉知

其罪則果明矣是臣誓所以不服於閣下之高識也閣下若不忘我邦之大義則奉忠　天朝致殛幕府施仁政於民是臣伏所祈也臣今屠死其言也必善閣下請少容焉臨表不堪泣涕

成就院忍向

[illegible]

たらしんのこころうるし

辞世

くもりなきこころの月もさつまかた
おきのなみまにやかて入ぬる

大君のためにはなにかをしからん
薩摩の瀬戸に身は沈むとも

同　舎弟　信海

西の海あつまのそらとかはるとも
こころはおなし君か代のため

安島帯刀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

頼三樹三郎

[illegible]

日下部裕之進

[illegible]

飯田左馬

[illegible]

[illegible]

中島兼女

[illegible]

うまれいでてそのかたちのあしき浮功とれ浮に
あしともあやまちある事もおほくある所なる
うしなひ君が道ひとつにう孫あまたあるを山の
栄ゆるあつくまもちかくしも時ありても昔しを
思ひ出るたぐひの行の跡さもしく深き人
の云社是我世も苦しき老の身に又十の字に
なりゆきて七十となる老の母物多さらしき往へ
情もおもてつるが我をまとしくも苦しかる我
それらくて我国のあたま社あだに見ふかうる
おほしくる老の云事我力学者も合せる朝

ほど年月もすぎのかた家は社会佐の国我土出
て世の事のみおかう法我を思ひぬ法う行う之
るも持ちくるけれど我さしおふのくちも中
す法引とつく世社上下そこの中旅を渉りあり
ひ天下の都ふ行まし常の言社庵に住まむ
山の寺社にありけるふるもしも深きて住むるを信
みの中ふみる事ある事をかしくも身を捨りて去
宿り皇国の事も数多ふりてちくし神ならしけ
一きりしふゆくれの暖の中なふみえ見しそてたく
暮ある旅夜鳴けくる声きし社卯米すも白しの梅

うち錦凪社あまたの中に久方社て錦をふそゆく
あま雨しけきも九重の雲井の神に
たてまつる也

返歌

玉錦のたてぬきあまたかさねてもたゝみかさねく
やすくとくこゝろの錦ちゝにかさねく
折あそびうちはゞけふしき橋のそく
人こゝろこゝろも錦を織し
あやにしき社とたゝる身をさゝうふの
雲井の彦に引きてこそたゞれり

大和錦　　佐野竹之助藤原光明

天照らす神の宮ゐに錦をさゝげて伊勢路を引くる
いにしへ東大和錦にありけるを、その昔しへの名残をとる
み月縄ありしも黒き袂の我ありてとけくるやし
浮世の雲居の雲井をさして己がやとりふみあらし
錦を染の宮あまた今の世こゝにたてもなく
と思ひつゝ大丈夫人の身なりに三月縄ありし世の
うたかたの袂をのこして早くもさとる心の宮人を
とくへなりて三錦に関をやしまして武蔵なる獄
西の中に誠をあらはしまん深き人々に兵乱をし

[illegible]

蓮田一五郎

三月三日。於閑老脇坂侯之邸。口吟

欲挽頹波四世運。一朝斬破姦魁頭。殘軀縱爲齏粉滅。凜々英名千載流。

三月二日。曙五ヵ寺。細川侯の邸。ふたりゝ。五日。社

[illegible]

七日夜。夢與母賞花於庭前。樂甚矣。已而寤。不覺血淚万行。因賦一詩

緑酒奉獻慈母傍。花促清宴興無殤。三更夢覺驚起

坐。不在庭園在他鄉。

隅田川の花ゝ雲ゝ人ゝ花ゝ面ゝ

春滿墨江烟景新。櫻花爛熳開紅塵。可憐昔日遨遊子。翻作從容就死人。

無題

身嬰鈍鋩志愈雄。剛肝撰學掀山風。生前恩澤報無處。除奸聊知效寸忠。

三月廿七日。評定所口吟。

伏節元期大義明。挺身欲拂海鯢橫。曲頭人世總如夢。千載空餘忠烈名。

この日死ぬ能はずと思つて辭世の歌ゝゝ作る

無題

道理貫肝義填胸從容笑處死生中。安知一片忠魂

鬼。夙夜儼然護皇宮。

[illegible]人の[illegible]の死と一枝折[illegible]

[illegible]人の[illegible]

寄落花述懷

いやうとつう[illegible]

幽囚年過六旬日每懷家鄉血淚垂。縱有鄉心勞遠夢。難奈法網此身隨。既以一身託釵鈍只悲慈母碑心腸。幽囚夜半孤眠夢偏向故園住處行。九天小堂獨嬾眠。千憂除去百悲傳。家鄉夜〻相思夢。共誘春風繞枕邊。

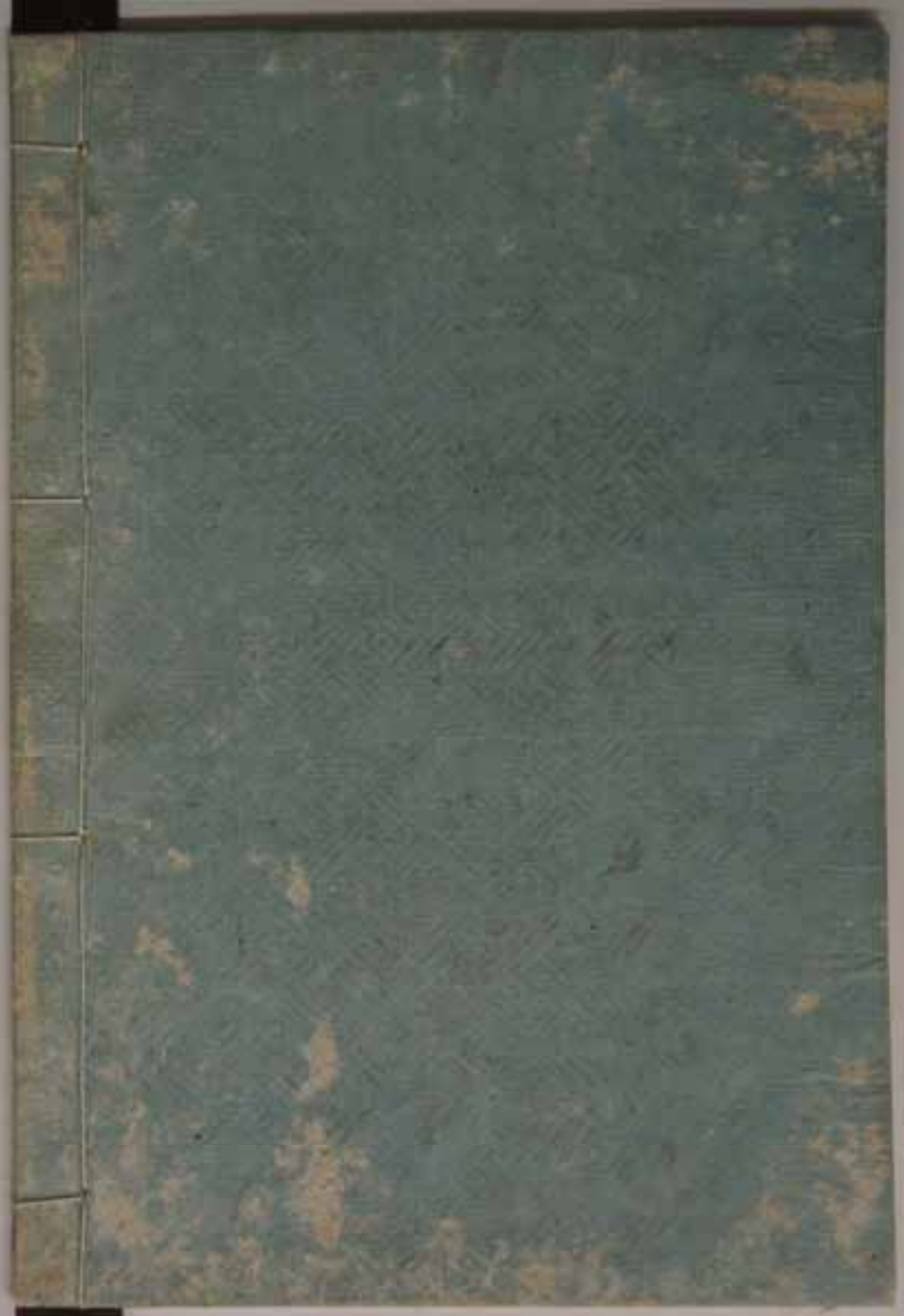
皇道久衰頹。誰能戴至尊。姦曲重慘毒。醜虜勢吐呑。不有迅雷斷。爭支狂浪翻。嗟予深感激。先士報天恩。

約是留皮豈偶然。功名夙欽定遠賢。洋夷未驅身先死。一片丹心好姜天。

[illegible]

[illegible]

世の[illegible]

嗟予十歲喪先親。成立一仰慈母訓。大義不成忠孝蔑。一生心事向誰陳。

今日杞憂一日深。孤忠欲挽夕陽沈。休言身死無功
效。必有明神鑒赤心。
欲明大義正華夷。頑鈍豈圖失事宜。身死功名難共
得。業空忠孝兩相虧。一念至此欲腸斷。淋漓只看血
淚垂。二十八年夢乍覺。一片清氣大空歸。